

3 学年間を見通した全体的な指導計画の作成について

- 1 3 学年間で目指す（育てたい）生徒の姿を明確にする。
- 2 目指す生徒の姿を実現するためのテーマを決める。
- 3 題材のまとまりで育む資質・能力を明確にする。
- 4 「生活の営みに係る見方・考え方」のいずれの視点を重視するのかを定める。家族・家庭生活に関する内容においては、主に「協力・協働」の視点、衣食住の生活に関する内容においては、主に「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」の視点、消費生活・環境に関する内容においては、主に「持続可能な社会の構築」の視点から物事を捉え、考察する。
- 5 A（1）については、小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるために、第1学年の最初に履修させる。
- 6 「生活の課題と実践」は、他の内容との関連を図り、3 学年間で三項目 A（4）、B（7）、C（3）のうち、一以上を選択して履修する。
- 7 今回の改訂で充実する内容について確認する。
 - ・内容 A 幼児と触れ合う活動を一層充実するとともに、高齢者など地域の人々と協働することについての内容
 - ・内容 B 基礎的・基本的な知識及び技能の習得のため、小学校での「ゆでる・いためる」に加え、「煮る、焼く、蒸す等」の調理方法を扱う。魚、肉、野菜などを用いた題材を設定する。和食として、だしと地域又は季節の食材を用いた煮物又は汁物を取り上げる。
 - ・（1）食事の役割、（2）調理の基礎、（3）栄養を考えた食事 の項目を相互に関連させて適切な題材を設定する。
 - ・日本の伝統的な生活（和食、和服等）について扱う。
 - ・内容 C 金銭の管理に関する内容、消費者被害について取り扱う。
- 8 （2）の目標は、学習過程（①生活の課題発見 ②解決方法の検討と計画 ③課題解決に向けた実践活動 ④実践活動の評価・活動 ⑤家庭・地域での実践）を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養う。指導事項アは、「知識及び技能」の習得に係る事項、指導事項イは、アで習得した知識及び技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」を育成することに係る事項としている。また、指導事項ア及びイは、学習過程を踏まえ、関連を図って取り扱う。
- 9 題材全体の学習課題を考え、つながりのある指導計画を工夫する。
- 10 他教科等との関連を図る。

習得した知識及び技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」を育成することに係る指導事項 一覧（中学校学習指導要領解説 技術・家庭編より一部抜粋）

内 容		項 目 指導事項	問題を見いだして課題を設定することに関する記述
A 家族・家庭生活		(2)イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	幼児の心身の発達などを踏まえて、幼児との関わり方についての問題を見いだし、設定するようにする。
		(3)イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。	中学生にとって身近な家族関係に関する問題を見いだし、課題を設定するようにする。 中学生の身近な地域の生活の中から、主に高齢者など地域の人々との関わりについての問題を見いだし、課題を設定するようにする。
B 衣食住の生活	食生活	(1)イ 健康によい食習慣について考え、工夫すること。	生徒の身近な生活の中から、食事の仕方に関する問題を見いだし、設定するようにする。
		(2)イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。	生徒の身近な生活の中から、1日分の食事内容に関する問題を見いだし、設定するようにする。
		(3)イ 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。	日常の1食分の調理において、食品の選択や調理の仕方、調理計画に関する問題を見いだし、設定するようにする。
	衣生活	(4)イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方考え、工夫すること。	生徒の身近な生活の中から、主に既製服の選択、購入に関する問題を見いだし、課題を設定するようにする。
		(5)イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。	生徒の身近な生活の中から、自分や家族、地域の人々の生活を豊かにすることや、資源や環境に配慮することに関する課題を設定するようにする。
	住生活	(6)イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。	家庭や地域での生活の中から、安全な住まい方に関する問題を見いだし、その中から設定するようにする。
C 消費生活・環境		(1)イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。	中学生にとって想定しやすい具体的な場面を取り上げ、生徒の生活体験などを踏まえて物資・サービスの購入に関する問題を見いだし、設定するようにする。
		(2)イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。	生徒の身近な生活の中から、生徒自身の消費行動に関する問題を見いだし、自分の消費生活の課題を設定するようにする。